

# カメラレポート



## ◀ひと足早い運動会

5月27日、伊上小学校・伊上保育所の春季大運動会が伊上小グラウンドで開催された。これは今年度から校舎が改築されるため例年より早く開かれたもので、児童や園児たちは古い校舎での最後の運動会に精いっぱいハッスルしていた。

5月15日、向津具小学校屋体において、山口県青少年劇場の一環として東京金管五重奏団演奏会が開かれた、これはすぐれた芸術を直接に鑑賞し、豊かな心を養うことを目的とするもので、向津具小・中学校の児童や生徒たちは、たのしいおしゃべりと美しい音色に聞き入っていた。

## ▼美しい音色に魅了されて!!



## ◀色とりどりの花でいっぱい!!

5月8日・9日の両日、向津具公民館盆栽教室、向津具農協の共催による第6回えびね展が向津具公民館で開催され、盆栽愛好者が丹精こめて育てたえびね約310鉢が出品された。また、えびねの苗の即売コーナーや、おしるこ無料サービスコーナーもあり盛況であった。

# 油谷町の古文書

(その三)

## 河原平野の開作

村田菊雄

後畑や向津具の山の伐れた跡を見ると、相当高い所にも石垣があり、以前は畠か田であったことを物語っているところが随分多い。又、町内各地に散在している休耕地も、何十年か先には山林になるのかも知れない。耕地を放任すればすぐ荒地になるが、それらの耕地は、私達の祖先の汗と脂で開かれたものであることを思うと、今更ながら、今昔の感に耐えない。

耕地を開くことを開作というが、「○○開作」と呼ばれているところは藩政時代に開かれたものが、大部分と思われる。

上村家文書によると、柿本人麻呂が連歌を興行したという伝説のある河原の連歌の江を、貞享三・四年(一六八六・七)に上村八郎左エ門が八町程開作地として拝領している。

それから五〇年経った享保二二年五月(一七三六)五町一反三畝一三步の開き立が終了したので検地を受け、米五三石一斗六升六合を知行地に加えられている。五町の田の開作に半世紀を要したということは、資本や労働力の関係もあり、非常に困難な大事業であった事が想像できる。

宝暦一三年(一七六三)の記録では、河原の浦で、東開作村(三町九反一畝一五歩・四三石八升五合)、中ノ手村(一町六反二一歩・一五石一斗二升一合)、浦ノ前村(一町八反一五歩・一九石六斗四升三合)の知行地があったが、いつ頃開作されたものかを示す史料が見当たらないので不明である。

久保家文書によると、五代目の四郎左エ門(延宝八年一六八八〇一宝暦五年一七五五頃生存)の頃、海開作で田畠や塩浜を開作し三六五石五斗の耕地を開いたことや、蔵小田の開作土手に植付けたと記録されているが、これ以上の詳しいことが分らない。

上村家文書の一部  
 河原平野の開作  
 上村家文書の一部  
 河原平野の開作

(上村家文書の一部)